

令和2年度学校自己評価

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

目指す学校像	本年度の重点目標	
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する	人みな 使命あり
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する	
心豊かな学校	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる	

3 教育指針

4 学校自己評価結果 【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった 】

評価項目		R1	R2	評価と改善プラン
地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する		評価	評価	
I	①総務部 PTAとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の新たな形を考え実践する	3.1	3.1	新形コロナウィルスの影響により地域活動への参加がしにくい状況があった。地域との連携を深める工夫がさらに必要である。
	②教務部 地域の外部講師、機関との関わりを促し、類型授業の動きを職員に示す	3.2	3.4	類型授業に対する職員個々の認識を高める工夫をする。
	③生徒指導部 地域行事に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う	3.7	3.3	新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの地域行事が中止となり、地域での活動が思うようにできなかった。しかし地域の期待も大きく、今後も地域づくりにつながる活動が生徒の主体性に結びつくような実践となるよう取り組みを展開していきたい。
	④進路指導部 地域をキーワードとして、地域関係学部学科での学びをプロデュースする	3.7	3.1	今後は、地域関係学部学科だけでなく、専攻分野の視点でいかに地域に焦点を当てるか工夫する。
	⑤保健部 家庭、学年と連携を深め、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる	3.3	3.4	今年は新型コロナウイルスの影響が大きかったので保健だより等でこまめに情報提供を行った。今後も新しい情報があればこまめに提供し、生徒自ら予防できるようにする必要がある。
	⑥1年 「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、またその役割を責任を持ってやり遂げるよう指導する	3.5	3.5	新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの地域行事が中止となり、スタート時の出遅れは感じられた。2学期より徐々に地域活動が再開され、限られた活動の中で、役割を自覚し意欲的に取り組む生徒が多くみられた。2年次に向けて、リーダーシップを発揮し、地域貢献に参画できる生徒の育成に取り組んでいきたい。
	⑦2年 総合学習の時間や地域探究を通して地域を正しく理解し、地域への愛着を深め地域貢献できる生徒の育成を目指す	3.5	3.4	地域創造系の研修やアウトドア系の実習、修学旅行などの行事が予定通り行うことができなかったが、今ある環境でどう行動するのか、どう適応するのか考えるを身につけることができた。
	⑧3年 総合的な学習の時間や種類の活動での学びを振り返りさせ、進路実現に活かせるよう指導する	3.6	3.2	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が思うようにできず苦労した面も多くあった。困難な状況でも生徒は柔軟に対応できたと思う。活動が進路実現に活かせる面は反省する。
自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る				
II	①総務部 地域活動で学んだことから新たな課題を提唱し、発展させられるような機会を持つ	2.8	3.0	村岡高校のこれからの展開を考えるために、様々な意見、アイデアを集める必要がある。
	②教務部 授業のユニバーサルデザイン化を促し、基礎学力の向上につなげる	3.0	3.0	多様な進路に対応できるよう、生徒の学力の底上げが課題である。
	③生徒指導部 リーダー研修会等でのワークショップを通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.5	3.3	リーダー研修会における班討議(ワークショップ)は充実しつつある。今後はクラス討議で意見を表明できる生徒の育成と学校生活改善実践ができるような取り組みをすすめていきたい。
	④進路指導部 志望理由書に早くから取り組むことにより、なりたい将来像を明確にする	3.6	3.1	高校3年間で学んだことや活動から得たものを、具体例を挙げながら言語化できるように継続的に問いかけていくことが必要である。
	⑤保健部 疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、実習・講習会などの機会を持つ	3.3	3.3	薬物乱用防止講演会だけでなく、今までにできていなかったLGBTに関する講演会も行うことができた。救急救命法に関する実習は新型コロナウイルスの影響により形をかえての実施となった。新型コロナウイルスについての対策は、今後も考えていく必要がある。
	⑥1年 基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力を育てるため、自学自習の習慣を身に付けさせる。	3.3	3.2	課せられた課題にはしっかり取り組み、提出期限を守る生徒が多い。自学自習の習慣を身につけるため、朝のSHRを利用し基礎学力の定着の学習に取り組んだ。しかしながら、家庭学習の習慣化までとはいかなかったと評価できる。生徒の学習状況を把握し、進路希望や具体的な目標を明確に提示しながら、主体的に家庭学習に取り組む生徒の育成に取り組むことが必要である。
	⑦2年 進路意識の向上と進路目標の明確化を目指して指導するとともに、進路実現に向けて学力の向上を目指す	3.1	3.3	今年度より大学入試制度が大きく変更となり、来年度も引き続き情報が少ない中での受験となることが予想される。よって早めに進路意識を高める事を目標に進路指導を行ってきた。主体的に学ぶ姿勢が今後さらに求められる。
	⑧3年 学校行事や授業等で得た知識をもとに、自己の考えを積極的に発表できるよう指導し、自己表現能力の育成に努める	3.2	3.3	多くの生徒が目標を達成できたが、入試制度が大きく変わったこと、コロナ禍での受験で厳しい結果となった。進路実現に向け早期の準備が必要であったと反省している。
共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる				
III	①総務部 高校生の活動を広く地域に理解していただくための具体的な方法を考える	3.1	3.1	様々な方法での新しい広報活動を考えていく必要がある。
	②教務部 各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促す。	2.6	3.0	研修を通してICTの活用を促すとともに、実際にICTを活用した研究授業を企画・立案する。
	③生徒指導部 生徒が積極的に参加する行事(村高祭等)を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.8	3.7	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの学校行事が中止、変更を余儀なくされる中でも、生徒会を中心に主体的に取り組む大きな感動と成長を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を体得し、さらに自己肯定感を持てるような実践を増やしていくことが求められている。
	④進路指導部 模擬面接・グループディスカッション並びにプレゼンテーションを通して、多様な意見を整理し、多面的な角度から自己を見つめる	3.8	3.2	多面的に自己を見つめるためには、知識も必要となるため、普段のニュースなどを題材にして、考える力を培っていきたい。
	⑤保健部 健全な学校生活を送るための環境作りの重要性を自覚し、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う	3.2	3.3	生徒人数の減少もあり、清掃個所、清掃分担の不具合等がないかどうかの確認をする。
	⑥1年 HR活動や学校行事などを通して、他人への思いやる心を育て、お互いを認め理解し、助け合える人間関係を育てる	3.3	3.5	新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月当初から休校が続き、生徒同士よそよそしい雰囲気が見られた。体験活動を取り入れた学年HRや行事や文化祭を通じて、相互理解・協力を基盤に個性や能力を認めあえる人間関係ができていった。
	⑦2年 中堅学年としての自覚を持ち、集団に寄与できる生徒の育成と、互いを認め高め合う人間関係の構築を図る	3.2	3.3	ごこちない人間関係が少しずつ改善されてきている。中堅学年、学校のリーダーとして動こうとする意識が芽生え始めてきた。
	⑧3年 最高学年としての自覚を持たせ、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す	3.3	3.5	最高学年としての自覚を持ち、村高祭などをはじめ、その他様々な活動においてリーダー性を発揮し、よくその役割を果たしたと思う。
	3.3	3.3		